

# 柳井小

三重県神道青年会報 第26号

# 五十二年目の二歩

## 会長 福田和人



天皇陛下御即位十年、更には三重県神道青年会創立五十周年という佳き年に、会長という大役を仰せつかり、寔に光榮の至りに存じます。又、五十周年の諸事業に關しましては皆様方の格別なるご理解とご協力を賜り、滞りなく執り終えられました事、先づ以て厚く御礼申し上げます。

思い起こせば、昨年の四月六日の県定例総会で第十九代会長として、更には四月二十三日の神青協定例総会では、東海地区理事として選出戴き、全国と県、それぞれ五十周年という大事業を控え、この任務を克服出来るか否か、不安

な日々が流れました。幸い、優れた副会長、役員に助けられ、今日の折り返しの地点までこれた事を心より感謝申し上げます。

顧みれば、五十周年事業に打ち込んだ一年でありました。平成十一年六月二十五日、緊張感高ぶる中に始まった記念奉告祭、記念式典。引続き、コマーションル等でお馴染の市田ひろみ先生を講師としてお迎えし、一般聴講も交えての記念講演会。そして、ラウンジにおいて華やかに記念祝賀会を執り行ない、感激の中に幕を閉じた事。将又、運営に当たりましては、新旧役員にて実行委員会を結成。波多瀬実行委員長のもと、議論に議論を重ね取り組んできた日々が走馬燈のように甦って参ります。更に八月二十二日には、今回の五十周年のテーマであります「伝えよう大和心」に基づき、また継続されてきたお宮の子供会の一環とし

て、内宮古殿地清掃・神宮施設の見学を実施。参加された神職子弟を始め、県内のボイスカウト、ガールスカウト総勢一三八名の子供たちの感激は、今なお、心の奥底に残っている事と思えます。

また昨年十一月十二日の天皇陛下御即位十年を奉祝する記念式典、皇居前広場においては国民祭典が盛大に開催され、その中に多くの若い方々が結集し、皇室に対しての敬愛の念を示したことは、



誠に喜ばしい事でありました。本年は、皇紀二千六百六拾年、平成の御代を迎えて早や十二年を数えます。今の世情、西暦使用が日常化されて居りますが、今こそ「伝えよう大和心」のテーマの如く、二千六百六拾年の歴史に培われてきた日本の文化を見直し、存続していかなければなりません。

本年は、神社庁、青年会共に東海五県の当番県を迎えます。五月には東海五県神社庁連合総会並びに神政連結成三十周年記念東海大会、そして八月末には、神道青年東海地区協議会を開催する運びとなって居ります。

我々青年神職に課せられた役割を果たすため、役員一同、五十二年目の第一歩を踏み出しつつ、より一層奮励努力していかなければなりません。会員皆様の更なる御協力を切にお願い致し、一年間の御礼とさせていただきます。

## 総務・広報委員会

### 委員長 内保隆幸



今年度 総務・広報委員長として、一年間務めさせて頂きました。この一年を振り返ってみて、とにかく目の前にあるものを片付けていくことに追われたよ

うに思います。特に、本年は三重県神道青年会創立五十周年の年に当たり、その記念誌「柳葉」の編纂に、かなりの時間をとられました。忙しい中、委員が集まったこともありました。完成できたのは、委員皆様のご協力だと感謝しております。自分自身の力不足のため、不十分なところはあると思いますが、この記念誌が多くの方に読んで頂き、少しでも得るものがあれば幸いです。

「柳葉」第二六号の編集に当たり、会員皆様アンケートをお願いいたしました。お忙しい中ご協力頂き、ありがとうございます。ご意見を頂きました。その結果のまとめについては、後のページで報告してありますので見て下さい。この出して頂いた意見を、今の実態を踏まえ、次にどう生かしていくかが大切だと思います。次年度、そのために委員長として力添えができればと考えています。



## 渉外・福祉委員会

### 委員長 中里貴彦



平成十一年四月より渉外福祉委員会を担当させていただきます。ただいております。この活動といたしましては、第一に会員相互の親睦を図る事であり、第二に神道人として地域社会の貢献を目標にしていかなければならないと思えます。

まず「新職員交流会」に始まり、「忘年会」「新年会」「県外研修」等を開催し、また「親睦会」については、会員の参加状況を考慮し、「新年会」と併せて行っています。OBの方も多数参加していただき、相互の心の繋がりを深め、大きな和を広められたのではと思っております。

福祉活動につきましては、今年、未だそれらしい活動をしておりません。一口に福祉といっても範囲が広く、大変難しい事であると思えますが、もっと努力し、神道人として世の為、人の為に奉仕する



心を持ち、その時代に応じた活動や、いろんな場所で貢献してもらえぬ事が、今後の課題と思えます。

私も青年会役員として年数が浅いこともあり、活動を担当するの戸惑う事ばかりで大いに勉強させていいただいておりますが、山路副会長を始め、木下委員、神田委員の暖かい御協力御支援を賜り何とか一年を乗り切る事が出来ました。

県内地理的な不便さがありますが、より多くの会員に参加していただき、多くの人との出会いの場、勉強の場を持ち、それが少しでも自分の職場でも活かす事ができるような活動にしていきたいと思えます。今後とも多大なる御協力をお願い致します。

### 教化・研修委員会

委員長 中野 雅史



この一年間教化研修委員会を担わせて頂きました。

昨年六月には創立五十周年記念式典、八月には記念事業神宮参拝と古殿地清掃(第二十三回)お宮の子供会)が開催されました。又、十二月には恒例となりました大麻頒布促進運動を西桑名ネオポリス新興住宅地に於て実施しました。期間中、福田会長、委員会担当の田中副会長、役員、委員、会員諸兄からの暖かいご協力ご支援を頂きました事を有難く心より感謝し御礼申し上げます。又、五十周年記念事業には、種村前会長をはじめ波多瀬実行委員長、講演部会担当の平野副会長には私の微力なところをお力添え頂きました事重ねて深謝申し上げます。活動をふり返ってみると諸先輩から受け継がれてきた夏休みの恒例行事お宮の子供会を創立五十周年記念事業神

宮参拝と古殿地清掃と企画し、神職の子弟、ボーイスカウト・ガールスカウト等百名以上の参加のもと神宮の施設見学、内宮止宮参拝引き続き古殿地にて清掃奉仕を行い、普段めったに入ることのできない古殿地で御奉仕できた事は夏休み最後の大きな思い出を作った事と確信しています。これからも新たな教化活動のあり方を考え一層活発な活動方針を見出し実践活動ができるよう委員会一同努力したいと思えます。今後の会員諸兄の御支援と御協力をお願い致します、皆様方の御健勝を心よりお祈り申し上げます。



### 役員紹介

- ▲会長▼ 福田 和人 二見興玉神社
- ▲副会長▼ 喜田川宗之 神宮
- 田中 淳 椿大神社
- 山路 太三 磯部神社
- ▲総務・広報委員会▼ 内保 隆幸 比々岐神社
- 塩崎 昇 神宮
- 藤田 弘幸 彌都加伎神社
- 原 忠照 八阪神社
- 宮田 幸尋 敢國神社
- ▲教化・研修委員会▼ 中野 雅史 三重県護国神社
- 中野 哲彦 多度大社
- 見垣 文敏 多度大社
- 松岡 弘典 神宮
- 長井 達弥 敢國神社
- ▲渉外・福祉委員会▼ 中里 貴彦 頭之宮四方神社
- 神田 基 猿田彦神社
- 木下 稔博 神宮
- ▲監事▼ 伊藤 智 三重県護国神社
- 波多瀬秀之 松阪神社
- ▲相談役▼ 種村 睦 金井神社
- 嵯峨井和風 鎮国・守国神社
- ▲顧問▼ 村尾 憲一 飛鳥神社

### 台湾・トルコ震災 義捐金送付の報告

三重県神道青年会では、台湾、トルコ共和国の大地震により、未曾有の災害にあわれた同国・被災者に対し、福祉事業の一環として、会員は固より奉職神社職員も含めて義捐金を募りましたところ、計二十一万三千五百円の募金が寄せられました。この義捐金は、神道青年全国協議会を通じて、トルコ大使館並びに台北駐日経済文化代表處に届けられましたので、ここにご報告致します。ご協力ありがとうございました。

### 伊雑宮のお田植祭

皇大神宮の遙宮にあたる伊雑宮では、毎年六月二十四日にお田植え祭(御神田)が行われる。香取神宮、住吉大社のお田植祭と共に、日本三大御田植祭として数えられ、当日は大変な賑わいを見せる。写真は、お田植えに先立ち行われる竹取神事である。下帯、はちまき姿の志摩の漁民が神田に入り、泥まみれになりながら団扇竹を奪い合う神事で、持ち帰った竹は、それぞれの家庭で神棚にまつられる。初夏の志摩路を彩る勇壮な神事のあと、昔の手振りそのまま古式床しいお田植え祭が行われる。

### 創立五十周年記念大会

六月二十五日、神宮会館で賑々しく、記念大会が百五十余名の参加者を数え、報告祭、式典、講演会、祝賀会の四部構成で挙行された。

報告祭は波多瀬秀之五十周年実行委員長を齋主に、厳肅に齋行され、本会の益々の発展と斯道の興隆を祈念した。

式典では福田和人会長より、五十周年を迎えての新たな決意が、式辞として述べられた。来賓諸氏より激励やご提言など心温まる祝辞を頂いた。次に、この十年「お宮の子供会」でお世話になった神社の宮司様に感謝状を授与した。

講演会は京都在住の服飾研究家市田ひろみ先生にご講演頂いた。自分の人生経験を踏まえ、変わってきている日本を嘆かれ、すばらしい日本文化を大切にしなければならぬということをユーモアを

今上陛下御即位十年の佳節に三重県神道青年会は五十周年を迎えた。それを祝し、「伝えよう大和心」をテーマに、記念事業に取り組んだ。



交えやさしく六十分間お話し頂いた。祝賀会は神宮会館ラウンジで行われた。会長挨拶、祝辞に続き、鏡開きが盛大に行われた。乾杯、祝宴と続き、祝宴では松阪夫婦太鼓が力強く場を盛り上げた。参会した方々はこの五十年間の思い出など語り、楽しいときを過ごされた。

### 古殿地清掃

八月二十二日、お宮の子供会の一環として、「神宮参拝・古殿地清掃と神宮施設見学」を行った。百三十八名の子供たちが集まった。古殿地清掃に先立ち、神宮徴古館など見学した。昼食後、落ち葉を拾ったり、雑草をぬいたり、大変な作業であったが、一時間三十分ほど夏の暑い日差しの中、子供たちは、清掃奉仕に励んだ。皇大神宮を仰ぎ見ながらの清掃奉仕活動は子供たちに清々しい感動を与えた。

### 五十周年記念誌「榊葉」発刊

この五十年のあゆみを残し、次の時代に続けていきたいということで、記念誌を発刊した。その中の「歴代会長の思い出・ご提言」には、私たち青年神職が今もう一度問い直さなければならぬことを、多くの経験をされてきた先輩として書いて下さっている。この言葉を真摯に受け止めていきたい。

### 歴代役員OB会

三月十三日、鳥羽の池の浦ホテルで、宇治土公第四代会長を始め多数の役員OBの皆様にご臨席をいただき、また、片岡昭雄三重県神社庁長をご来賓として迎え開催した。本年度事業の報告、創立五十周年事業の報告を行い、OBの方々からのご意見を仰いだ。終了後の懇親会では、膝を突き合わせ、経験を踏まえたお話を聞け、得るところが多かった。役員OBの方々のお話を聞き、現役員は、来年度に向けて、更なる取り組みを進めることを期した。



# 定例総会

平成十年度定例総会が四月六日、神社庁会議室にて種村会長以下役員、会員二十三名、来賓三名の出席にて開催された。

開会儀礼の後、会長挨拶、来賓の片岡神社庁長・中森神社庁担当理事・東氏子青年協議会長より祝辞を頂戴し、その後平野副会長を議長に選出し議事へと移った。

まず会長より十年度会務報告、事務局より会計決算報告、監事より会計監査報告が行われ、夫々承認された。次に、種村会長任期満了に伴う役員改選が行われ、新会長に福田副会長、監事は伊藤・波多瀬監事が留任、副会長には喜田川会員、田中元理事、山路理事が指名され、各地区よりブロック理事が選出、会長指名理事が十名指名され、承認を受け、新役員を代表して福田新会長より挨拶があった。続いて、十一年度活動方針案並びに事業計画案、同会計予算案、創立五十周年事業案、事業組織案が審議されて承認を受け、定例総会は滞りなく終了した。(原 記)

# 新職員交流会

去る七月七日、新会員の入会を祝して「新職員交流会」が行われた。当日は、午後三時から津グラウンドボールにおいてボーリング大会が、続いて、午後五時から神社庁において懇親会が行われた。

ボーリング大会は、福田会長の始球式をもって開会した。最初は緊張気味だった新職員たちも、次第に先輩会員たちと打ち解けて、終始和やかな雰囲気の中でゲームは進んだ。

ゲーム終了後、会場を神社庁に移して懇親会が行われた。福田会長の乾杯の発声により始まり、懇親会が進む中、ボーリング大会の結果報告、表彰式、自己紹介、一芸披露など行われ、ボーリングの



得点成績やこれからの抱負を話題に楽しい会が繰り広げられた。例年、上位は先輩会員が独占してきたが、本年は杉原新会員が第二位、又、中村新職員が二百点以上もの得点を出すなどで新職員が大健闘を見せた。(木下 記)

# 神青協夏期セミナー

平成十一年度夏期セミナーは九月二十九日・三十日の両日、神社本庁において「国旗・国歌と青少年育成」を主題とし、全国から百三十名の会員が集い開催された。

初日の開講式のと、日本会議東京本部議長加瀬英明先生により、日本の国旗・国歌の歴史と共に、参議院予算委員会における教育立場からの報告を資料として、荒廃する教育現場の実態に関する総論また講義においては、「日本の国柄と国旗・国歌」と題し、併せて討論会が行われた。

翌三十日は、参議院議員小山孝雄先生が「このままでは子害ではるびる」と題して、荒れる教育現場の現況について国会での調査報告を主軸に、国旗掲揚、国歌斉唱推進について語られ、次に京都産業大学所功先生より「日本に最もふさわしい国旗・国歌」と題し、講義と討論会が行われた。

# 会務報告

- 〈四月〉
  - 六日 平成十年度定例総会
    - 二六名出席 神社庁
    - 卒業式
      - 二九名参加 津市内
  - 三日 神社総代会定例総会
    - 一三名参加 神宮会館
  - 二日 神青協創立五十周年記念式典
    - 四名出席 明治記念館
  - 三日 第五回神青協定例総会
    - 六名出席 神社本庁
  - 二六日 第一回役員会
    - 一三名出席 神社庁
  - 二六日 第二回役員会
    - 一三名出席 神社庁
  - 二六日 第二回役員会
    - 一三名出席 神社庁
  - 二七日 愛知県神道青年会
    - 創立五十周年記念大会
      - 五名出席 熱田神宮会館
  - 二四日 第三回役員会
    - 一三名出席 神宮会館
    - 神青協「北方領土返還祈願碑」復帰祈願祭
      - 一名参加 根室市
  - 二五日 三重県神道青年会創立五十周年記念大会
    - 三名出席 神宮会館
  - 七日 第四回役員会
    - 一三名出席 神社庁
  - 七日 新職員交流会
    - 三名参加 津グラウンドボール
  - 九日 東海五県連絡協議会
    - 三名出席 伊奈波神社
- 〈八月〉
  - 二〇日 第五回役員会
    - 一三名出席 神宮司庁
  - 二二日 創立五十周年記念
    - お宮の子供会 神宮
  - 二五日 神青協世界平和祈願祭・靖國神社慰霊祭
    - 七名参加 神青通信発行
- 〈九月〉
  - 六〜七日 東海五県連絡協議会
    - 及び教化研修会
      - 一名参加 岐阜市内
  - 二九〜三〇日 神青協夏期セミナー
    - 四名出席 神社本庁
  - 三〇日 敬神婦人会総会
    - 八名参加 神宮会館
  - 〈十月〉
    - 六日 第六回役員会
      - 一四名出席 神社庁
    - 四日 長野県神道青年会創立五十周年記念大会
      - 四名出席 深志神社
    - 一五〜二六日 第二八回初穂曳
      - 一名参加 伊勢市内
    - 三〇日 神社関係者大会
      - 八名参加 神宮会館
    - 〈十一月〉
      - 五日 第七回役員会
        - 一三名出席 神社庁
      - 二日 天皇陛下御即位十年
        - 国民祭典・祝賀式典
          - 一名参加 皇居前広場
      - 一六日 氏青協親睦ゴルフコンペ
        - 七名参加 一志町
      - 〈十二月〉
        - 二日 大麻頒布促進運動
          - 一三名参加 西桑名ネオポリス

# 東海五県教化研修会

国旗及び国歌に関する法律が成立され、これを機に、あらためて我が国の伝統を振り返り、これから私達が次世代を担う若者達にどのように理解してもらい、かかわるべきかを真剣に考えていく上で、有意義な二日間であった。(中里 記)

去る九月六日から七日の両日にわたり岐阜県神道振興会の当番にて岐阜キャッスルホテルを会場に「平成十一年度東海五県神道青年連絡協議会及び教化研修会」が九十二名の参加を得て開催された。三重県からは福田会長以下十一名



が参加した。

研修会では、国際宗教研究所宗教情報リサーチセンター研究員森瑞枝先生をお迎えして、「神社・神職と公共性」をテーマに、公共空間としての神社、またその担い手としての神職の歴史的役割についてご講演いただいた。

その後の討論会では、事前に集計したアンケートの結果をもとに、神職と地域住民との感覚のちがひ、宗教法人と自治会との諸問題などについて活発な討論が行われた。また、翌日の親睦行事においては、各県対抗のボーリング大会が二年ぶりに行われ、各県との交流を深めあった。(見垣 記)

# 神宮大麻頒布促進運動

昨年十二月二日神宮大麻頒布促進運動として、会員十二名が、員弁郡員弁町の金井神社(種村睦宮司)に集合し、西桑名ネオポリスに於いて執り行なわれた。

当地での大麻頒布活動は、今回で九回目を迎え、二名一組、五班に分かれて行動した。しかし、新興住宅地という事もあり、留守宅



が大半を占め、少し物寂しさを感じたのも事実であるが、新しく御神札を受けたので、神棚の置く場所を教えてほしいと言う、熱心な方もみえた。そういったお宅では、神棚拝詞を奏上し、丁寧に大麻を納め、「敬神崇祖」の心を説いて廻った。

(杉原 記)

### 親睦会

新年を迎え神青初の行事「親睦会・ゴルフコンペ」は、一月二十八日、快晴の伊勢志摩カントリークラブでOBを含む十四名で行われた。

午前九時スタート。昨夜の新年会の疲れも忘れ白球を打った。右へ左へと打ち込むボールを駆け足で捜し、やっとたどり着いたグリーンでは、ホールの周りを行ったり来たり。キャディーさんは「大変なお客さんに当たったわ」苦笑する。なんとか、かんとか次のホールへ。日頃から運動不足の私には良い刺激であった。

激であったが、他の会員は日頃の成果を存分に出しているよう(？)、尻上がりに調子をあげてきた村尾先輩は、キャディーさんの大きな不安を少しづつ取り除いていった。

終日良い天気にも恵まれ、美しいコースで日頃の運動不足の解消になったのか、参加者は皆、怪我もなく生き生きとした顔つきになってホールアウト。

和気藹々としたなか、午後三時半解散となった。

さて、結果であるが、西尾先輩のV2を、一打差で服部先輩が阻んで優勝！ 二位ー西尾先輩 三位ー大西先輩と、OBに独占された。(上坂 記)



去る二月五日、三重県神社庁に於いて、氏子青年協議会との合同研修会が開催された。

### 氏子青年会との合同研修会

この研修会は、両会が毎年交互に担当して開催されており、本年は氏青の担当で総勢三十七名が参加した。研修は、先ず「神社本庁

### 神宮神道青年会との合同研修会

神宮神道青年会との合同研修会が去る二月二十六日(土)午後二時から神宮司廳において開催された。本会からは福田会長以下七名、また神宮神青会員及び職員有志約三〇名が参加し、盛会であった。研修では約三時間にわたり、幻の映画とされる「氷雪の門」が上映された。

まず、上映に先立ち講師である皇學館高校教諭、本間一誠、中島英哉両先生から講話を賜った。

本間先生は、この映画が『樺太一九四五年夏ー樺太終戦記ー』という詳細なルポルタージュを基に制作されたこと、ソ連の外圧を受け上映中止になるいきさつ、また民族の言語を守り、歴史を語り継ぐことが如何に大切であるかを、教育現場の現状を踏まえ、力強く語られた。

また、中島先生は、当時のソ連軍の行動が如何に不当で



あるかということ、歴史事実と国際法に照らしながら詳細に解説された。

北方領土返還交渉がロシアと交わされつつある昨今、正しく歴史を理解し、語り継ぎ、人を導く神道人として、資質向上の一助となる研修会であった。

なお、この映画は本年八月に、当会が主催する東海五県教化研修会でも上映され、両先生方の講演も予定されている。(塩崎 記)



並びに三重県神社庁とは指定団体全国組織」と題し、県神社庁石上参事による講話、続いて福田県神青会長、岡田全国氏青副会長、山中県氏青会長、森下阿山郡氏青会長、岡本上野市氏青会長が、それぞれの組織、活動について説明を行った。氏青会員の中にはこれらの組織、又、氏青以外の関係団体について初めて知ったという声が多く聞かれ、大変有意義な研修となった。

その後、会場を移して懇親会が催され、会員相互の親睦を深め、盛況のうちに無事その幕を閉じた。(神田 記)

### 神青協中央研修会

三月六日、七日の両日、神青協中央研修会が、秋田キャッスルホテルを会場に開催され、当県からは福田会長始め八名が参加した。研修は「まつりと日本文化ー酒ー」を主題とし、先ず中西正幸國學院教授により「まつりと酒ー古典・祭祀学からー」と題する講義が行われ、神宮祭祀を中心として酒と人の関わり、また女性の酒作りへの役割を学んだ。パネルディスカッションでは、「酒とまつりと神」と題し、齋藤壽胤先生(鶴ヶ崎神社宮司)をコーディネイターに、中西正幸先生、小玉順一郎先生(小玉酒造株式会社代表取締役会長)をパネリストとして話が進められた。中西先生は「米づくり文化の象徴として、精神文化の結晶したものが酒である」と指摘。また、小玉先生は醸造元の立場から「日本酒の醸造は純粋さを求めてきた」と述べ、日本酒の神聖さや清らかさを強調した。齋藤先生は秋田県内の酒にまつわる神社の祭りをビデオで紹介。神道儀礼に於ける酒と神との関わりをわかり易く説明。続いて、滝澤行雄秋

田大学名誉教授により「心身に与える酒の効能」と題し、講義が行われ、医学的立場から見た日本酒の効能、特に日本酒のガン抑制の事実が紹介された。この後、懇親会が行われ、清興として「なまはげ太鼓」が披露された。二日目は、蘭田稔京都大学教授により「酒と宗教文化」と題し、世界の宗教から見た、酒と神との関わりが紹介され、各宗教に於ける酒の文化を学んだ。閉講式では、次回開催の富山県が紹介され、盛会のうちに幕を閉じた。(喜田川 記)



五日 敢国神社例祭 五名奉仕  
九日 第八回役員会 忘年会 二名出席 神社庁  
一三日 東海五県連絡協議会 津市内 三名出席 金神社  
二三日 創立五十周年記念誌 『神葉』発行

〈平成十二年一月〉  
二七日 第九回役員会 磯部町内 一三名出席  
二八日 新年会 磯部町内 親睦会 一四名参加

〈二月〉  
五日 氏青・神青合同研修会 氏青三十名・神青七名参加 神社庁  
二六日 神宮神青・県神青 合同研修会 神宮三十名・県七名参加 神宮司庁

〈三月〉  
六〜七日 神青協中央研修会 八名参加 秋田市内  
一三日 歴代役員OB会 OB一八名・会員一八名出席 二見町内  
二九日 東海地区協議会 五名出席

三一日 『神葉』第二十六号発行

# アンケート集約結果

三重県神道青年会も創立五十周年を迎えました。この五十年間先輩方の努力で多くの実績が積み上げられてきました。その積み上げを生かして、更なるスタートをきるため、今の青年会の現状を知り、問題点を明らかにして、これからのあり方を模索するべく、アンケートを実施しました。回収率は六二・五%でした。公私共に何かとお忙しい中、ご協力いただきありがとうございます。その結果をまとめて報告します。

性別は当然、男性が多く、現在女性は四名です。しかし、これから増加していくであろうと考えます。年齢別の割合は(表1)のようになりました。比較のため今年度の名簿からもその割合を出してみました。ほぼ同じ結果になりました。三十代が六十%を占め、年代が若くなるごとに減少している

葉

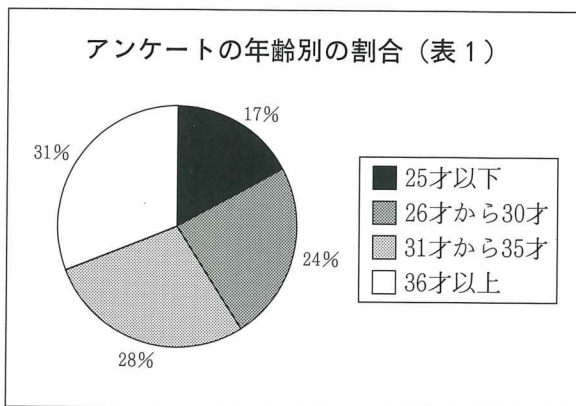
榊

ということは、これから会員数は減少していく可能性があると考えられます。神社の神職数による割合(表2)は、十一名以上の神社に奉職している人が一番多く、ほぼ七十%を占めます。しかし、名簿によって神職数による割合を出すと、十一名以上の神社は五十%程度になります。よって、規模の大きい神社の神職の人がアンケートを多く回答してくれたということになります。どちらにしても、神職数の多い神社が本会の中枢を担っていることになります。

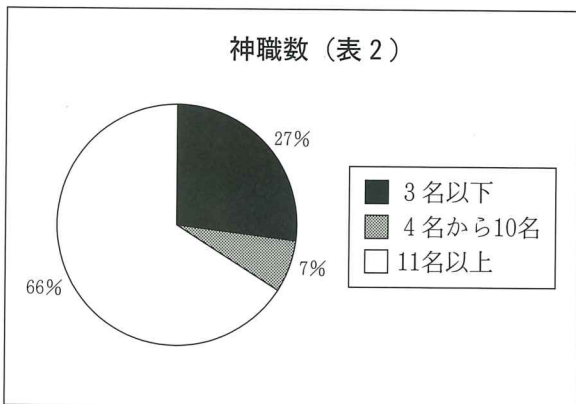
次に神職以外の仕事をしている人の割合(表3)は二十一%です。しかし、実際はもう少し高いと考えられます。職種としては公務員(教員を含む)が多く占めます。神職以外の仕事をしている人のほとんどが、神職数が三名以下の神社に奉職しています。

次に神職以外の仕事をしている人の割合(表3)は二十一%です。しかし、実際はもう少し高いと考えられます。職種としては公務員(教員を含む)が多く占めます。神職以外の仕事をしている人のほとんどが、神職数が三名以下の神社に奉職しています。

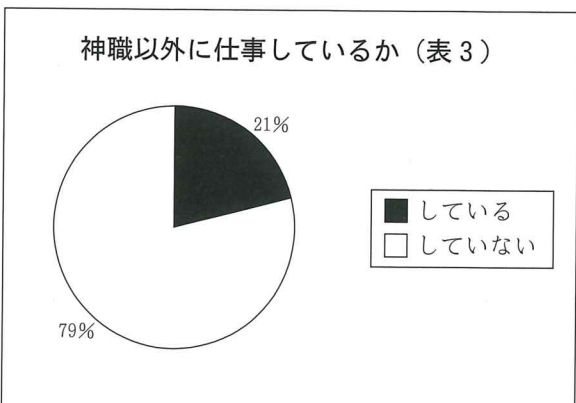
アンケートの年齢別の割合 (表1)



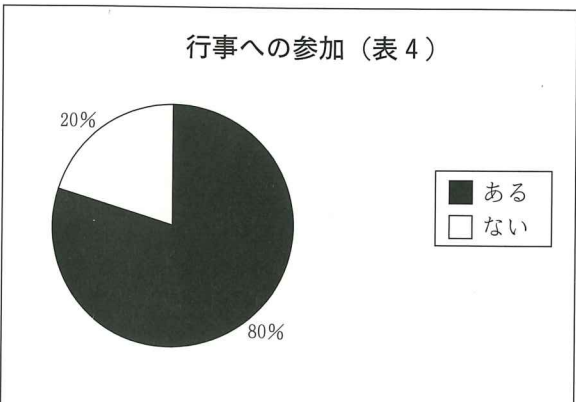
神職数 (表2)



神職以外に仕事しているか (表3)



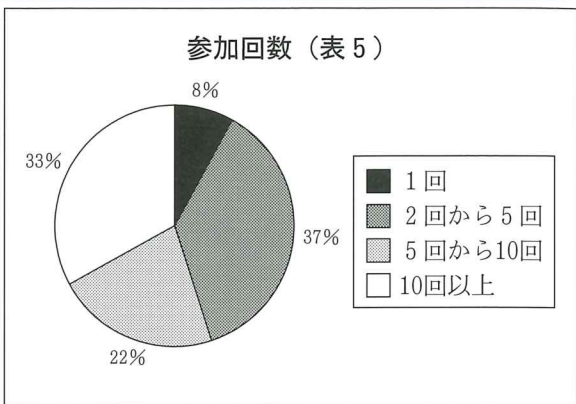
行事への参加 (表4)



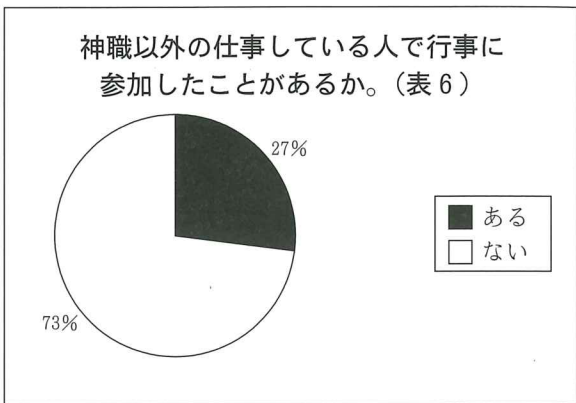
葉

榊

参加回数 (表5)



神職以外の仕事している人で行事に参加したことがあるか。(表6)



行事への参加については(表4)八十%の人が参加したことがあるということ、高い参加率で、参加回数も複数という人が多くいます(表5)。しかし、これを神職以外の仕事をしている人だけで見ますと二十七%となり、かなり減少します(表6)。参加できない理由として、ほぼ全員が、時間の都合がつかないということです。

神青の行事は、ほとんどが平日です。したがって、神職以外の仕事をしている人にとっては、参加

することが難しいようです。行事の日程、時間などを考えていく必要があります。

希望行事として挙げられたものには次のようなものがあります。

- 研修会(祭式、時局、大麻頒布・御遷宮、パソコンなど)
- 合同研修会(他県神青、女子神職、他職の諸団体など)
- 皇居奉仕団
- 禊めぐり
- 他県神社・海外鎮座神社の視

## 察・祭礼拝観

- コンサート
- ゴルフ以外の親睦行事
- 体験学習
- サークル活動
- ボランティア活動
- OBから話を聞く会

希望として出されたこととしては次のようなことがあります。

- 青年会ならではの活動
- 後世に評価される活動
- 地域社会のための市民活動を重点にして
- 上限を下げて若い人たちが中心の活動
- お金のかからない会の運営
- 頒布品の販売
- 国外へも視野を広めた活動
- ホームページの開設
- 多くの会員が参加できるように取り組み

ほかにも多くの意見をいただきました。しかし、集計の都合上、同じ意見と考えまとめたものもあります。本人の意にそわない場合

があるかもしれません。ご諒解ください。

希望や希望行事をたくさん出していただきました。これを如何に実現していくかが大切です。しかし、それは容易なことではありません。

何をすることも会員の協力が要ります。その協力をどう得ていくかです。大きな行事をすれば、それだけ人数が必要になってきます。規模の大きな神社でも一度にたくさんの人を出すというのは困難です。また、小さな神社では他の仕事をしている人が多く、時間をつけることが困難です。勤務終了後といったも、三重県は広く、その移動に時間がかかり、早い時間にするのは容易ではありません。このような現状をふまえ、どのように活動していくか考えていかなければなりません。方法はあると思いますが、どういうやり方、どういうことをしても、会員一人ひとりの青年神職として自覚、やる気がなければ何もできないと思います。がんばりましょう。

## 神青協創立五十周年記念事業

## 北方領土復帰祈願祭に参加して

会員 長内弘昭

去る六月二十四日、根室市にて神道青年全国協議会創立五十周年記念事業の一つである「北方領土復帰祈願祭」が行われ、三重県神道青年会の代表として参列した。

当日は、根室地方特有の濃霧と気温十度という天候の中、前日釧路市に集合した全国の神青会員百七十五名が五台のバスに分乗、北方領土の見えるノサップ岬に到着した。神青協では、発足当初より北方領土問題に取り組み、返還運動推進の活動としては昭和五十三



年に同地に全国各地から持ち寄った石を礎石とする「北方領土復帰祈願碑」を建立した経緯があり、今回もこの祈願碑前での祭典齋行となった。

午前十一時、齋主以下参進し修祓、降神の儀の後、献饌。祝詞と齋主玉串拝礼後、奥神青協会長に合せて全会員が玉串拝礼を行った。次に来賓の玉串拝礼、撤饌と昇神の儀を行い、最後に、田村神青協幹事の先導により全員で聖寿万歳を行って、復帰祈願祭は滞りなく終了した。

あいにくの天候で、北方領土を間近に見ることはかなわなかったが、北方領土返還推進運動が、我々神道青年にとって重要な使命の一つであることを新たに決意させる上では、大変意義のある記念事業であったと思う。

『世界平和祈願祭』  
『靖國神社慰霊祭』

理事 中野雅史

神道青年全国協議会創立五十周年の記念事業として昨年八月二十五日、九段会館、靖國神社において『世界平和祈願祭』『靖國神社

慰霊祭』が齋行された。午後一時より九段会館において、神青協小

嶋副会長を齋主に約千名の参列者のなか、祈願祭が執り行われ、世界の平和をお祈り申し上げた。祭典終了後、小野雅楽会による「振鉞」「抜頭」の舞楽二曲が奉奏され、次いで小学校六年生の本橋典子さんが、世界に向けて平和のメッセージを読み上げた。九段会館での『世界平和祈願祭』を終え、全員靖國神社に移動し、午後四時三十分、靖國神社湯澤宮司様をはじめ六百数十名が参列するなか、靖國神社三井権宮司様を齋主に、厳肅に慰霊祭が執り行われた。祭典は、百人の全国神青会員が祭員役人を奉仕し、修祓の後、本殿に参進した。献饌に続き齋主祝詞奏上、次に神青協からの幣帛と五十周年記念誌・教化冊子「靖國さま・護國さま」と各単位会よりの奉献酒を御神前にお供えた。続いて靖國神社巫女による神楽「みたま慰めの舞」が奉奏された。神楽の後、参列者全員により國學院大學吹奏学部の演奏で「君が代」「海ゆかば」を二回づつ奉唱し、二百四十六万余柱の英霊の御霊をお慰め申し上げた。

## 編集後記

榊葉二十六号の編集を無事終えることができました。本年は創立五十周年の節目ということでアンケートを実施しました。皆様のご協力により青年会の現状が少し見えたように思います。お礼申し上げます。さて、このような会の現状や希望などを踏まえ、運営をどう進めていくか考えていくことが大切です。また、出された希望行事の中から取捨選択して一つでも実施していけるように取り組むことも必要です。それが行われなければ、このアンケートが意味をなしませんし、青年会としても変化が生まれません。創立五十周年を迎え、新たな青年会に向けての第一歩になればと思います。最後になりましたが原稿の依頼に快く受けていただき寄稿いただいた皆様にお礼申し上げます。

## 報「榊葉」

## 第26号

平成12年3月31日

発行者 福田和人

編集 総務広報委員会

発行所 津市鳥居町210-2

三重県神社庁内

三重県神道青年会